



豊島輝彦（東高7期）大谷短大美術科助教授

札幌東高同窓会報

昭和53年8月
第6号
札幌東高等学校同窓会

校舎改築に想うこと

同窓会副会長 塩川

（東高二期）信

東高校の現校舎が、中島公園にあった旧校舎を当時併設されていた中島中学校に譲渡して現在地に新築移転されたのは、昭和二十八年のことでした。ところで、この校舎新築には当初から一つの問題点があつたのです。それは

昭和二十六年に東高校新校舎促進期成会から札幌市議会に提出された校舎新築移転に関する請願書が、翌二十七年に採択されるに当たつて、「東高校は中島中学校の建設という名目で起債をえ、完成の後中島中学校と交換する」という条件がつけられていたことです。そのため、一・二期工事を終えて昭和二十八年十一月に一応の完成をみた新校舎は、文部省の高等学校設置規準に満たない狭さで、新校舎を自由に使用された状態で勉強せざるを得ないこととなつたのでした。

このように、現校舎はその建設当初

から問題点を抱えていた上に、その後成までは、その後三期にわたつて継ぎたされていつたことや、当時の建築資材の問題もあってか、校舎の一部は出来あがつた当初からきしみ音を出している状態でした。

以来二十年ほどを経て、市内の公立高校から木造校舎がほとんど姿を消し近代的な鉄筋校舎で教育の行われている中にあつて、東高校は、造られてからの年数が割に少ないことや、その後の管理が行届いていたために外観上のいたみがそれほどひどくないこともあつてか、校舎改築計画の具体化は仲々進展せずに今日に到つてしましましたしかし、総合選抜制の導入など、高校教育の条件整備が大きな社会問題になっている現在、東高校の校舎改築は、教育の機会均等の上からも是非早急に解決されなければならない今日的課題であるといえましょう。

最近の私の関心

廣瀬 隆司

北海学園大学教養部長

今から七年前、一年間フランスへ留学していた折、二十万円程で手に入れた一九六〇年製というオンボロ中古車プジョウを驅って、フランスの古寺巡礼に出て以来、ロマネスク美術にとりつかれてしまつた。

ようやく探し当てた僻村の一時は納屋であったと思われるような陋屋の壁面に描かれた、農婦のようにたくましい、イエス降誕図の聖母マリア。十字架姿のゴシック風のキリストではなく、簡潔鮮明な色彩構成の王者の如きタウールの「全能者キリスト」の壁画。閻魔大王にも以たキリストを中心とする地獄極楽の西歐風曼陀羅ともいべき、教会正面入口上のフリーズ。素朴で土俗的な聖母子像。柱や柱頭といった限定された空間に押し込められた奇想天外な怪物や聖書説話場面の迫力とユーモア。こうした、異教的なものをも取込み乍ら、かもし出す空間がロマネスクの世界なのである。

ヨーロッパの中世美術といえば、都会の家並を圧してそそり立つ尖塔と美しいステンドガラスを持つゴシック式教会を思い描くことであろう。このゴシック美術以前にあつたのがロマネスク美術で私の中学時代の教科書では、平板で因習的・類形的非個性的と片づけられて来たものなのである。だが実際には、円空仏に心をひかれ、黒人芸術に魂をゆさぶられるのといた、近代的価値観が見忘れて来た何とかが、ロマネスク世界から響いて来るのを感じる。

ヴァイキングで知られる第二次民族移動がおさまり、日本の戦国時代のように各地方に有力者が台頭して、商業の復活と共に盛り上がる民衆の活気の中から形成された地方色の濃い教会美術がロマネスクで、一修道僧は「紀元一〇〇〇年を過ぎること三年のころ、ほとんど全世界において……聖堂は基礎から屋根に至るまで改築された。……さながら全世界が申し合せて、古代のぼろ布を脱ぎ捨



ベル・ギャラン公園からルーブ宮殿をのぞむ筆者

私は西欧精神の源流の一つを、ロマネスク世界に出見すべきだと考えているがこうした美術を生み出した人々に関心を向ける時、最近のフランス歴史学会で、人類学・民族学等の方法・成果をとり入れることによって、これまでの表層の歴史記述から深層の歴史記述への移行の努力が見られ、人間精神（メンタリテ）への関心が深まっている傾向に共感を覚えている。折があれば、スライドを通してロマネスク世界を紹介したいものである

元東高教諭 昭和34年4月
世界史、昭和41年3月在職



中部フランスのコンク教会の正門タンバの彫刻、右下が地獄、左下が天国

函館支部同窓会開く

函館支部長 矢野滋子（高女23期）

今年は立春が過ぎても毎日きびしい寒さがつづきましたが二月二十四日、久しう振りに開かれた函館支部同窓会は、午前十一時から湯の川の市の職員会館で行われました。

幸いお天気に恵まれましたものの連日の寒さにも負けず、四十名の方々が集まり誠に盛大でございました。

札幌から同窓会長の松尾静江様のご出席もあり、女子職業学校、札幌市立高女の同窓生はもとより更に札幌東高校の同窓生の方も多数参加し、その上当市でお元気に御活躍頂いてる恩師浅見先生、井沼先生、大森先生をお迎えしてにぎやかな楽しい会合でございました。

松尾会長さんからは、最近の母校の様子等をお話しあげましたし、同窓会の開催にあたりました。

さて私の函館支部は昭和十五年に、先輩の伊藤さん、田畑さん、山口さん達が中心になって発足して以来、今年で三十八周年を迎えたわけでござります。私が当市へ参りましてお仲間入りをしてからもう十年になりますが、何時もなごやかな和気アイ／＼とした会合で、時には春、秋のレクリエーションもございまして、同窓生やその御家族に御不幸があればはせ参じてお悔み申し上げ、御病氣の時には度々お見舞い申し上げたり、会員相互が心から励まし合い助け合つてまいりました。

此の度の同窓会も松尾会長さんの趣旨に従いまして、旧市立高女と東高との合同の形で開催する事になりますと、何よりも名簿の整理とその確認、連絡と、それはそれは幹事の仕事は大変なものでございます。しかし此の作業の原動力となつたのは幹事のお一人、本谷美由喜様の尊い死でございました。故本谷さんは久

し振りに開かれるこの同窓会を、とても楽しめた。そして幹事心づくしの御料理に舌づみを打ちながら、大先輩は、「北の都の我が校に……」と、私共は、「御稜威輝く日の本の……」と校歌をうたい、モダンなリズムの「窓辺に明かるく春の日みちて……」と若い方々の二部合唱が流れれる頃には、一同すっかり打ちとけて窓の外の寒さはどこえやら、部屋の中には一足とびに春が来たような暖かさで一ぱいでございました。

残された幹事の高間さんは大奮闘なさいましたが、皆様よく御協力を下さいまして、総員百十名に上る整然とした支部名簿も出来ました。これからも支部一同力を合せて会員相互の親睦と、同窓会のますますの発展を計るために一層努力してまいります。

恩師、井沼、浅見、大森先生を囲み、松尾会長の出席を得て開かれた東高函館支
部同窓会



音楽雑感

小さな音楽練習室の思い出

権平洋子

うさぎ追いしかの山
こぶなつりしかの川
夢は今もめぐりて
忘れがたきふるさと

NHKホールいっぱいにひびきわたる

子供たちの声、札幌を想い、父母友達を心に浮かべ、苦しく長かった練習の日々をおもいおこしながら精いっぱい歌つた“ふるさと”どの子どもたちの瞳も感激の涙でうるんでいた。教職にあつた頃のNHKの合唱コンクールで全国一になり表彰式に出席のため子供たちと上京した時のことであった。

リーン、授業終了のベルがなる。起立礼、学級委員の合図で授業終了、先生は前の出口から、私はうしろの出口からそつと、しかも小走りに体育館を横ぎつて音楽練習室へ——学校がまだ中島公園の横にあつた頃、体育館の南側にうなぎの寝床のような音楽教室が十ばかり並んだ。広さは畳三枚くらい、ピアノなら一台、オルガンなら二台入つていて、四人でいっぱいになる小さな小さな部屋だつた。

私は休み時間はここにいくのが日課になつていた。特に何かを練習するわけではなくけれど隔離された小さな部屋で仲間と一緒に歌つた。

のいい友達と校歌をうたい、学習の下しらべをし、将来の夢を語りあって過したものだつた。この音楽練習室の前の廊下にはいつもおくれをとつた者が群をなしていた。

放課後は音楽室で合唱練習、“ひびかない”暗い：“伊藤富美代先生の耳はごまかせない。少しでも不安定な音に対してもうしやなく叱責が飛ぶ。そしてCE G・C・F・A・H・D・G・と単調な音程練習のくり返しである。

その時は楽しいというより苦しみの方が多いかつたような毎日の練習だつたが、何はともあれ卒業まで続いたのだからやはり心をゆきぶる何かがあつたのだろう乙女らよ白樺の身の上話を知つてゐるか子供時の白樺はけつして幹が白くないかぼそく黒くしなやかでかすかな風にも心をくばる

やがて背丈が伸び出すと…………

卒業演奏会の歌は長い特訓のかいがあつてとてもよい出来であつたとか。

声の美しさより音程を、フレーズのま

とまりよりもハーモニーの美しさを、と合唱というものをきびしく仕込まれた私は教職につくと知らず知らずのうちに子供たちに伊藤富美代先生に指導されたと

同じことをたたきこんでいた。

そして十年目に

全国一の喜びを味わうことがで

きた。

私は今ビルの地下で喫茶店を

経営している。

お店の中央にあ

るエレクトーン

はかつての教え

子が演奏しウ

トレスも卒業さ

せた教え子たち

で全員大学生の

アルバイト。

そして私はわざわざたずねて

きて下さる昔の仲間、教え子たち、そ

して父母との交流を楽しみに毎日を頑張っている。

昨日も合唱をしていた教え子の結婚式に招待されていつてきた。合唱をし

きてよかつたという言葉を聞き本当に嬉しく思つた。形あるものはいつかは

消えるけれど身についた技能、そして



とてもよい出来とほめられた卒業演奏会

同期会報告 一期生

私達一期生は、卒業の年の六月に、いきなり男女共学となり（その頃は小学校は教室が男女別、中学・高校は学校そのものが別でした。）その時の恥ずかしい照れくさい気持を今でも強烈に覚えております。在学中は異性とロクに話をすることができず、またフォークダンスの授業にも男の私達は女性の手を握ることができず男生徒全員が屋内体育館を逃げ出しました。そのせいか、女性恐怖症？にかかり（私だけかもしませんが……）ごく最近になってようやく男女共学をしてよかつたと思うようになりました。

（同期会の出席率も男が四七%まで上がりました。）今まで十年以上も異性に關係なくのびのびと勉学にいそしんでいた（？）のですが、年頃になつて同じ教室で、それも席を並べるということは、どんなに恥かしいことか、それは経験したものでなければ分からぬと思います。

ですから体育の先生がその異和感を取り除こうとして、いきなりフォークダンスというもつともらしい理由をつけて異性の手を握れといつても、質実剛健・堅忍不拔の精神しかたたき込まれていなかつた私達はどうしてもできなかつたのです。

となつてもらおうではないか」と決議しました。

同期の皆様が元気な姿を見せ二年前の青春時代に若返つて楽しいひとときを過すこと

な、今回の同期会は「一人でも多くの方に出席してもらおうと、また都合で出席できない方には同期会があるという

この席上「今は全国に散らばり、それぞれの分野で活躍している同期生の名簿を作成し、また今回の記念写真も一緒に全員に送つて、懐かしい学生時代を思い出させ、今後も待ち構えているであろう困難を乗り越えて行くための力です。

青春時代に若返つて！

一十七年前の

です。

今でも、その時

の体育の先生に悪

いと思っておりま

す。

今年の同期会は

六月二十三日(金)

センチュリーロー

ヤルホテルで、久

末、美浦、安倍、

神、遠藤順三、工

藤（旧姓内田）のへ



恩師の久末、美浦、安倍、遠藤(順)、工藤の各先生をお迎えしてセンチュリーローヤルホテルで開かれた一期生の同期会

|| 幹事長報告 ||

昭和五十二年度会務報告

幹事長 藤田昭治

昭和52年度の主な会務を報告します。

1 東高倉立七十周年誌念事業について

昨年は 東高創立七周年を迎えた。その記念事業を実施すべく、PTA、東高

賛会を発足し、前号の会報で詳細をお

達成することができました。

2、同窓会事務局について

4 東高同窓会の東京会（東京支部）について

にて

同窓会の事務局を学校側に依頼すべく準備を進めておりましたが、七月に引き継ぎを終わりました。

年々増加する会員、そしてその消息等の適確な掌握、或は幹事会等各種連絡事項の撤底等々、学校側にはご迷惑かと思いますが今後ますますスムーズな会の運営が得られるることを確信しておられます。

3、会員個人台帳の作成について

5、「相談役」の新設について

同窓会の会則に相談役を設定すべく、昭和53年の総会において審議していました。だくことになりました。すでに、役員

藤田幹事長出席、東高同窓生在
京有志十六名出席。
役員会
幹事名簿発行について。

各役員の担当業務について

新年会兼常任幹事会 第一ホテル

同窓函館支部總会
函館市職員会館

出席者四十名

小野寺副会長以下全役員出席
新会員四百四十名

新入会幹事と同窓会役員との懇親会。比専会館で開催。出席者

二十一名。

第69回総会開催について。

第69回総会開催について

役員改選について その他。

ンペ開催。

役員会
百留屋

支部設置規定について。

相談役新設に伴う会規の一部変更について。

昭和52年度決算書及び53年度予算書

53年度予算

52年度決算

収 入 金 2,320,000円也
支 出 金 2,320,000円也
差引残額 金 0円也

収 入 金 2,643,202円也
支 出 金 1,501,280円也
差引残額 金 1,141,922円也

科 目		摘 要	予 算 額
収 入 の 部	1. 新入会員会費	450人 1人 1,500円	675,000
	2. 年 会 費	1,000口 1口 500円	500,000
	3. 前期繰越金		1,141,922
	4. 雜 収 入	利子収入	3,078
計			2,320,000
支 出 の 部	1. 事務手当	事務局手当	120,000
	2. 事用品費	会員個人台帳バインダーほか	80,000
	3. 印刷費	会議案内書印刷代	70,000
	4. 通信費	郵便切手・はがき代	100,000
	5. 交通費	見込額計上	10,000
	6. 慶弔費	同上	50,000
	7. 会議費	役員会・幹事会・諸会議会場費ほか	300,000
	8. 総会関係費	総会費用及び招待者費用	200,000
	9. 会報関係費	会報発行印刷代ほか	150,000
	10. 学校祭関係費	学校祭参加費用	150,000
	11. 同期会等助成費	見込額計上	170,000
	12. 新入会員関係費	記念品 350円 450個ほか	160,000
	13. 雑費		100,000
	14. 予備費		660,000
計			2,320,000
差 引 残 額			0

科 目		摘 要	決 算 額
収 入 の 部	1. 新入会員会費	454人(含初年度会費)	681,000
	2. 年 会 費	1,197口	598,500
	3. 前期繰越金		317,006
	4. 雜 収 入	名簿発行・七十周年記念事業特別会計より、ほか	1,046,696
計			2,643,202
支 出 の 部	1. 事務手当	事務局手当	60,000
	2. 事用品費	帳簿ほか	6,400
	3. 印刷費	会員個人台帳	320,780
	4. 通信費	郵便切手・はがき	93,250
	5. 交通費		2,020
	6. 慶弔費	会員弔電等	38,310
	7. 会議費	幹事会・役員会・諸会議費用	254,140
	8. 総会関係費	総会費用及び招待者費用	200,000
	9. 会報関係費		0
	10. 学校祭関係費	母校学校祭参加費用	125,680
	11. 同期会助成費	東京支部設置準備費ほか	180,000
	12. 新入会員関係費	祝餅贈呈	145,800
	13. 雑費	選抜選手への賛別ほか	74,900
計			1,501,280
差 引 残 額			1,141,922

特別会計積立金

前期繰越金 金 3,691,741円

収益配当加金 金 174,847円

計 金 3,866,588円



新入会員入会式 新幹事紹介



塩川副会長から委嘱状を受ける

同窓会有志ゴルフ大会

第六回東高同窓会ゴルフコンペは、昭和52年9月13日（火）に、三十二名の参加（うち女性二名）を得て、真駒内ゴルフコースで行なわれた。登録メンバー（過去の参加者全部）は六十名を越えるが、今回は平日開催のこともあって約半数の出席となつた。

今回は初の試みとして、オフシャルハンデを持っていない人たちを救済すると意図で、全員変則ペリア方式による算定ハンデで競われた。この方式では、宝クジ的要素が強く、親睦の意味は強まるが、コンペとしての緊迫感がないという点で、この方式に対する賛否はまちまちである。

また、同ネットの場合、は練習グリーンを利用し、パターのみの使用でプレーオフを行なつた。これは皆んなの声援や冷かしに囲まれてのゲームで非常に楽しいものであった。

この方式は今後も踏襲されるに違いない。同窓会コンペは年二回の開催を通例としているが、会員諸氏の多数の参加を期待している。尚、今年度より会の充実を図るため、会長及び事務局長を常設することにし、各期が輪番で運営幹事を務めることとなつた。

会長 吉川 昌利
事務局長 奏 敬

第六回同窓会コンペ成績

優勝	竹内 恒之	(三期)
二位	松長 一夫	(一三期)
三位	鈴木 秀昌	(二期)
四位	木下 紀夫	(九期)
五位	久米 克己	(九期)

第七回同窓会コンペは芙蓉コースで開催！

昭和五十三年七月四日	優勝	佐々木良一	(十三期)
	二位	深谷 淳一	(二期)
	三位	乙丸 修弥	(九期)
	四位	斎藤 八郎	(七期)
	五位	得能 勝	(十三期)

尚、第八回は秋に予定されております。世話役は七期の方々が当たることになつております。ゴルフファンの方々奮つてご参加ください。



東高同窓会東京支部のご案内

開催日 昭和53年10月7日(土)午後3時より
会場 上野東天紅
会費 男性 5,000円 女性 4,000円

詳しいことのお問い合わせは 工藤恒美（東高二期） 豊島区長崎6-9-6 TEL 958-8889